

2021年度委員会事業報告書

グループ名 観光グループ

委員会名 日本一の道の駅委員会

担当副理事長 谷口 慶一
委員長 鈴木 克佳
副委員長 伊藤 壮眞
総括幹事 伊東 孝浩
拡大幹事 小林 由典
運営幹事 木和田 充雄
運営幹事 北河 範好
広報幹事 井上 真行
メンバー 小林 功
アドバイザー 中村 尚人



【担当事業及び担当例会】

＜日本一「観光客が集まる道の駅」構想勉強会＞

市長を始めとする行政に影響を持つ方を中心で構成されております勉強会メンバーと本年度内に3回に分けて勉強会を行いました、外部講師、将来のパートナー候補となるような企業を招き、知見を深めました。

～第1回勉強会～

現在日本一の道の駅と表される川場田園プラザの永井社長を講師にお招きます。地域の独自性を活かす道の駅を紹介していただき、道の駅ができることによる、経済効果を可視化しました。。

～第2回勉強会～

道の駅を管轄している国土交通省と、道の駅に関わる企業(積水ハウス)を講師に招きます。地方創生の成功モデルケースに選定されている道の駅や、新業態の観光拠点として注目される道の駅を紹介していただき、より良い道の駅を作るための理解を深めました。

～第3回勉強会～

道の駅の運営に繋がる魅力的な試みを行っている企業(スノーピーク)をお招きし、定期的な観光客が訪れる付加価値が高いコンテンツを紹介していただきました。

～豊川コンファレンス～

豊川コンファレンスを本事業の一定のゴールと位置付け豊川市長と観光グループ担当副理事長でパネルディスカッションを行いました。

【実施効果及び成果】

豊川市のまちづくりに対し高い知識と経験を持っている勉強会メンバーと、道の駅事業に関わる講師をお招きしました。会議のかしこまった設営ではなく勉強会にし、また、タイムスケジュールの質疑応答とディスカッションの時間を多くすることで、自由闊達な議論が行われました。道の駅の必要性、課題や運営をしていくプロセスなど、より踏み込んだ内容の意見交換と、日本一「観光客が集まる道の駅」の誕生に向けて、交流人口の拡大に繋がる道の駅の必要性とスノーピークキャンプ場開設の可能性を共有できました。

【反省並びに今後の課題】

目的としておりました豊川コンファレンスにて市長から道の駅開設について名言をいただくまでに至りませんでした。市長の意見でよくでたのが道の駅開設、運営による行政が負担する費用が大きいのではないかという意見がありました。道の駅建設に際し費用を減らせるプランや道の駅の収益性見込めるプランなど勉強会を通じてもっと具体的に提案することが必要だったと考えます。

また、なぜ道の駅が必要なのか、交流人口の拡大に繋がるなら、道の駅にこだわらなくてもいいのではないかという意見もありました。今後は、今までの道の駅のイメージを払拭できるような、道の駅の可能性を見出し魅力的な観光スポットとなりえることを、もっとアピールする必要があると考えます。

【委員長所見】

豊川に交流人口の拡大に繋がる、日本一「観光客が集まる道の駅」が将来誕生するよう、全3回の勉強会を開催しました。

平日の日中に加え一週おきの開催というのに、勉強会メンバーの参加率が100%で、勉強会が毎回盛り上がり沢山の意見が出たことはとても感動しました。

しかし、ほとんどJCメンバーがこの機会を現地での共有が出来なかった事は心残りです。会場の選定やライブ配信を検討するなど方法はあったはずで、JCメンバーに対し配慮がかけていたことをとても反省しております。

全3回の勉強会を通じて改めて豊川市のポテンシャルを感じました。勉強会メンバーからは道の駅に対し、沢山の問題点や具体案いただきました。結果的に市長から道の駅開設に対するお言葉はいただけませんでした。市長をはじめとする勉強会メンバーから今後の取り組みも期待していただけたことは、目的である『日本一「観光客が集まる道の駅」が豊川に将来誕生するよう勉強会を開催し、市政を動かす事』の今後に繋がったのではないかと思います。開催した意義を感じております。

本事業は新型コロナウイルス蔓延の影響をかなり受けました。私がやりたかった内容から変更や調整を余儀なくされる中、谷口副理事長と委員会メンバーでやりきれた

ことは、とても誇りに思います。改めて感謝申し上げます。

最後に、豊川市にいつかできるであろう道の駅に、この勉強会で出た意見が反映されていることを心から願っております。

【担当室長所見】

本事業は、私が2018年に委員長を務めた頃から向き合っている、非常に思い入れのある事業でもありました。

本年度、観光グループとして、豊川市に新たな観光資源を生み出す事業として、本事業を取り組んで参りましたが、新型コロナウイルスの影響により、イベント形式の構想を見送りながら、市長を交えての構想勉強会という形として最終的に取り組む事になりました。目的にもある「行政を動かす事」を意識する上では、最善の手法に辿り着いたのではないかと考えております。まちを動かす事のできる講師レベルの方々に勉強会メンバーに加わっていただく事で、豊川市に観光を切り口とした道の駅が誕生する上で、本質的に重要になるディスカッションができた事は、非常に意義のある試みであったと思います。

結果として市長から明確な意思を聞く事は出来ませんでした。定期的にこうした場を作ってくださいと、市長や勉強会メンバーから言っただけの事もあり今後に繋がる良い機会を作れたと思います。

また、委員長をはじめとする委員会メンバーと、コロナ禍で柔軟な発送と対応を繰り返していった時間は、とても貴重な財産ともなりました。一年間ありがとうございました。